



中高生世代のために 1318 Happy Zone

今回は、育成財団が連携している社団法人小さい愛を分かち合う会(ブスロギ)の事業の柱の一つである、中高生世代の支援施設1318Happy Zone(いちさんいちばち・ハッピーゾーン)についてご紹介します。

1318Happy Zoneとは

地域児童センターの青少年版が1318HappyZoneです。その名の通り、13～18歳の子どもたちを対象としています。2006年からのモデル事業としてスタートし、2009年度中までに全国で40カ所が設置されます。地域児童センターと同じく貧困や、ひとり親家庭であるなど、課題を抱えている子どもたちが多く利用しています。2008年現在で、約5,000人が利用登録をしています。

この世代の個別的なニーズに対応するため、知識／情報／安全／文化領域にわたって多様なプログラム提供を行っています。具体的には、学習支援、バンドやダンスなどのサークル活動、スポーツ、緊急時シェルター、文化交流、相談事業などを実施しています。

この事業は、ブスロギが事務局となって3つのセクターが協働し、全国展開しているものです。一つは公益法人であるブスロギ。加えて、行政組織である韓国政府保健福祉部(日本の厚生労働省)と教育科学部(同 文部科学省)です。

そして、多額の出資をしている民間企業「SKグループ」です。SKは韓国の財閥系企業グループで、携帯電話などの大企業やプロ野球チームを保有しています。この事業はSKの社会貢献事業として位置づけられており、総額91億ウォンが提供されています。1318HappyZoneは、官民協働の新たな仕組みとしても期待が寄せられているのです。

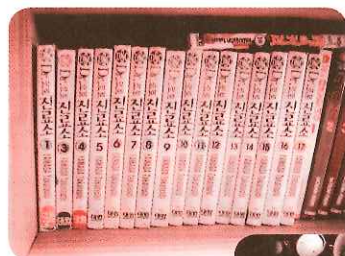


▲ロゴにもSKの文字があります

2つの1318HappyZoneを訪問して

私たちが訪問したのは、1318Happy Zone「青少年文化空間フィマングオルム」です。明るい雰囲気の概観で、子どもたちが入りやすいようになっています。訪問した時にはバンドの練習をしたり、工作をしたり、スタッフとおやつ準備をしたりと、それぞれが思い思いの活動をしていました。

この施設の特徴的な活動として、家庭へのソーシャル



◀マンガ「Dr.コトー診療所」のハンゲル版



この日のおやつは
トッポギとウモロコン▶

ワークの展開が挙げられます。家庭訪問や保護者会の開催など、家族を含めて支援しています。深刻なケースも多く、スタッフのソーシャルワーカーとしての役割が大きくなっています。

もう一カ所訪問したのは、1318HappyZone西大門です。前号でご紹介した西大門地域児童センターから徒歩数分のところに位置しています。雑居ビルのワンフロアを使って運営していました。

毎日平均40名ほどの利用があり、その運営のサポートを多くの大学生ボランティアが担っていました。大学生の存在は、中高生の心の支えになっているとのことでした。こちらは2007年には延べ297日間、1万人程度の利用があったそうです。

日本の中高生対応児童館と比べると、明らかに設備面では劣るかもしれません。しかし、その家庭的雰囲気の中で、課題を持った子どもたちの居場所としての機能を着実に果たしていると言えます。また、民間企業、政府、公益法人の三者がタッグを組んで、全国で事業展開していくというスキームは、日本でも進んで欲しいものです。

さて今回は、ブスロギのもう一つの事業の柱、「地域児童情報センター」についてご紹介します。



<参考サイト> 「1318Happy zone」 <http://1318happyzone.org/> (韓国語) (<http://1318happyzone.org/1318/noname2.htm>にPRビデオがあり、現場の様子が分かります)
「SKグループ社会貢献」<http://www.sk.com/happycontribution/about/about.asp> (英語)